

シャープ PC-MT1-H1S

科学館では、歴代のさまざまなコンピュータを所蔵しており、資料として保存しています。今回はその中から、2001年にシャープが発売したモバイルノート、PC-MT1-H1Sをご紹介します。

CPUはPentiumⅢを搭載し、OSは発売当初はWindows Meのみでしたが、のちにXPモデルも発売されています。メインメモリは128MB…！2001年発売と聞くと、あまり昔に感じませんが、こういうところには20年の歴史を感じますね（最近のノートパソコンのメモリ容量は最低でも4GB以上）。

このノートパソコンの厚さは約16.6mm、当時最も薄いノートパソコンの1つでした。そのすがたから、愛称「MURAMASA(ムラマサ)」の名がつけられています(ムラ



写真2. 横から見たすがた
最薄部16.6mm、重さ1.3kg、
当時としては超薄型・軽量ボディ



写真1. シャープ PC-MT1-H1S

| | |
|------|--------------------------|
| 発売年 | 2001年 |
| メーカー | SHARP |
| CPU | PentiumⅢ プロセッサ 500MHz |
| メモリ | 標準128MB |

サとは、室町時代の日本刀、村正のこと。確かに横から見るととても薄く、モニタを開くとその動きに連動してキートップが自動的に持ち上がるという、当時としては新しい機構も組み込まれていました。パソコンの小型化・軽量化は現代でもどんどん進んでいますが、CPUやメモリ、バッテリーの他、筐体(側の部分)に使用する金属や樹脂など、あらゆる部分に技術革新の歴史が詰まっているのです。

西野 藍子(科学館学芸員)